

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

11

《EKUTEBIAN VOL.9 NOVEMBER 1991-EKUTEBIAN》



まい ありと ●レリーフ「ひだまり」 by 関谷悦子

一枝の影も欺かず

俳人、中村草田男。立川の根川にその句碑が建てられた。「冬の水一枝の影も欺かず、実はここ立川の柴崎町普濟寺で、この一句を作っていたということをご存じでしたか？草田男、創刊の俳誌『萬緑』の五百号記念を機に、建立。道ゆく人に詩情を与える。



『萬緑』を代表して、川合絹淑氏、立川市長に句碑の目録を贈る。



中村草田男の長女三千子さんも句碑建設の喜びを語る。



歌人・若山旅人氏(富士見町)も、祝辞にかけつける。



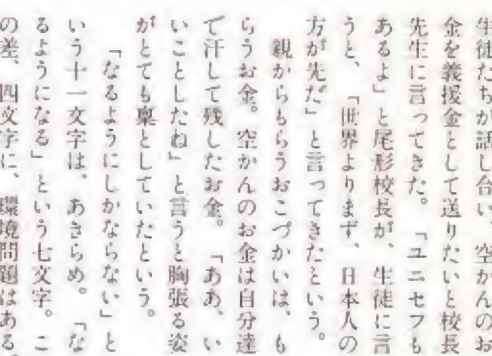
『萬緑』の同人、立川市民俳句会の面々、句碑建立を喜びあう。

いよいよ幕が……注目の一瞬。草田男の四女、依子さんと立川市長により句碑が序幕される。



★雲仙にまで届いた
七小生徒の熱い気持ち★

●空かんを
教材にできないか



それを生き方の質として気づいてくれたら、という一休禅師の言葉で語ってくれた。

「うーん大変だなあ」と言いながら
空かんつぶしに汗する七小生徒たち

どこか、明るいのを感じ、校
門を後にした。

銀杏の色も黄付き八百屋の店先にはみかん。街行く人も、ジャンパーやウィンドブレーカー姿が出現。冬があちこちに顔を出す今日このごろになりました。

暮らしにこそ事業に
お陰に立つよう
努力しています。



全国公立学校連合会

佐藤氏、広報功労賞
都内二十六市ではじめて
今年四月の
異動まで十
四年間、広
報活動にあ
たってきた
立川市役所、元広報課長佐藤高之
氏がこの程、日本広報協会から広
報功労者として表彰を受けた。

都内二十六市からは、はじめての受賞である。「広報たちがわ」の取材執筆をはじめ、紙面活字の大規模化。自らお祭りを企画し、その動向を自ら書き、また、ゴミ問題をいち早く取り上げ、言葉だけで終わらず、実際に十年前から市報を再生して発行する等。広報マンとして原点に帰ってモノを書く姿勢を聞いた。

野間児童文芸賞受賞

昭和三十九年、文壇にデビューした。デビュー作は『ワ・ワールド』を書き続けて二十年、

立川と主人公によるポエティックな世界を覗いてみれば卓越した何かがある。何かがついていくのがわかるだろう。立川が新しく見えてくる。



このあたりの多摩川の川原にと
ても珍しい植物が自生しているの
を存知でしょうか。分布が限ら
れ、しかも植物学上、最初に見
られたのがここ立川、という貴重
なもの。昔よりずいぶん少なくなっ
ているそうですが、毎年けなげに咲
いているその花の名は？

【10月号の答】 ③

て大勢の見物人で賑わったそうです。創立間もない明治43年にはその数一万数千人に及んだとか。地元からは山のような賞品も贈られて、まさに三多摩の一大イベントだったわけです。

10月号では第一回目(明治34年)の見物人の数として出題しましたが、明治43年の折の数でしたのでお詫びして訂正いたします。


菊花薫る候、とはよく云
つたもので天候不順の今年
ですが、確實に秋色濃くな
つてまいりました。街のそ
こで菊花まつりが催さ
れております。秋の薫り豊
かな真如死へ、どうぞ、涼
やかにお出掛けください。

日時 11月15日
午後2時〜4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民(成人)に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてび あん・コンパニオン」(本誌を手渡してくれた人)へ。



落語に、風流を気取って俳句をよむ癖がある。テーマ(俳句のほうでは兼題とか、席題というらしい)は「春雨」。ハツつあんだか熊さんだかが「ガリガリと船底かじる春の鯉」とやって笑いをとるという寸法だ。俳句のお笑いに、なんにでも「根岸の里のわび住い」を付けるのがある。「秋深し根岸の里のわび住い」、「落葉散る根岸の里のわび住まい」、「初雪や根岸の里のわび住い」●根川緑道に建立された草田男句碑「冬の水一枝の影も欺かず」とはじめて出会った時、どう読んだらいいのか解らなかった。ツマズキは「一枝」にある。俳句に馴染みがない人間はつい「ひとえだ」と読んでしまう。そうすると、全体が五七五のリズムを崩してしまう。このことを人に話し話し、ようやくにして「いっし」という読みに辿り着く。なんととも気恥かしい。もつとも「草田男」をソウデンオトコと読んだ豪の者もいるくらいだから「一枝」の読み違いくらいで驚くこともないか。俗に詩人は三万、歌人三十万、俳人三百万人という。短いから、多いというわけのものではあるまい。五七五のリズムが日本人の軀には染み込んでいて、日本語とよほど相性がいいのであろう。谷川水車先生が中心になって活動している立川市民俳句会は、いつも盛況だ。街にあふれよ「うたごころ」!一句ひねりますか。飛石をふむ音一つ、えくてびあん

刊
えくてびあん 第88号
平成三年十一月一日発行

て遠くへとぶ。実を出したとき
り返った姿が御輿の屋根に似る
でミコシグサとも呼ばれている
ススキ、オギ、メリケンカルカヤ



糸のような美しく大きな綿毛をつけたガガイモが、殺から飛び出す光景は自然が生み出す見事な光景だ

(鈴木 功)

い。は、それだけ大勢の車に成るものではない。
大勢の車に成るものではない。


沸きかえ

大さきい薬罐は

二つある

よたり、ないくは遠くの人。
遠くにいるのは、急場
の役には親に立
救わす

発行所 大くびろん編集工房
東京都立川市柴崎町1-3-37
383
管城ビル3F 干190
電話 ○西二五〇〇八〇2
FAX ○四二五〇一297
編集人 立井啓介
発行人 沖野眞男
印刷所 樹大廣社



私の傑作選

NO.4

NICE SHOT!

誰のアルバムにもキラリッと光る一枚がある。
撮れたノと思った。シャッターが軽い。



有馬君雄さん
(柴崎町3丁目)
愛機↓ニコンF4
■御車と斜塔

野村義重さん
(柴崎町4丁目)
愛機↓ロライフレックス
■すすき



涼るる風に音も聞かむか



涼るる風に音も聞かむか
有馬君雄さん
野村義重さん
若